



2018年12月17日

第99回ピースボート「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」 おりづるプロジェクト2018 プロジェクトの概要とその成果

- クルーズ 第99回ピースボート地球一周の船旅
- テーマ 「核兵器の禁止から廃絶へ市民の力で進めよう」
- 期間 2018年9月1日(水)～2018年12月17日(月) 横浜発着 計108日間
- 寄港地数 21カ国 24寄港地
- 使用客船 オーシャンドリーム号
- 参加者
 - 被爆者 2名(ともに広島被爆) ※「非核特使」に委嘱
塚本 美知子、空 民子
 - ユース 1名 安藤 真子(広島) ※「ユース非核特使」に委嘱
- 証言活動 14カ国 17都市にて実施
- 後援 広島市/長崎市/平和首長会議/日本原水爆被害者団体協議会
公益財団法人広島平和文化センター/公益財団法人長崎平和推進協会
- プロジェクト通称 おりづるプロジェクト
- 主な活動と成果
 - ①原爆の被害の実相、核兵器の非人道性について世界各地の学生・市民へ理解を深め、また市民運動の世界を動かす力への認識を高めた。
 - シンガポール、コトル、モトリル、ダブリン、カヤオ、マンサニージョ、ホノルルなどの寄港地で、小中高大学生に向けて証言会を実施。寄港地の証言会ではのべ1,200名以上に証言を届けた。
 - 船内のアジアからの参加者に対し証言会を実施。
 - ②核兵器禁止条約への署名・批准を各国に求め、核兵器禁止条約発効への機運を高めた。
 - ポルトガル議会で核兵器禁止条約への賛同を要請。
 - ニューヨーク国連本部にてメキシコ・オーストリア両政府の共催で核兵器禁止条約の早期発効に向けたイベントを開催。
 - ギリシャのコルフ市が平和首長会議に加盟を表明。
 - ヒバクシャ国際署名を計1,842人分集める。
 - ③次世代への継承を担うピースガイドの養成をおこなった。
 - 被爆体験の継承と核なき世界に向けて活動する「おりづるピースガイド」の養成講座を実施、31名が修了(国籍:日本、カナダ、米国、香港、台湾、中国。年齢:10～30代の若者が16名、60～70代が15名)。今後、原爆や平和に関する活動に取り組む。

■参加被爆者 略歴

■被爆者

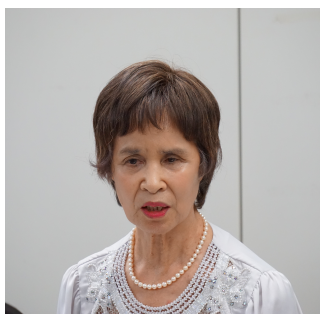


塚本 美知子(つかもと・みちこ)

広島被爆 1934年9月16日生まれ 被爆当時10歳

東京都杉並区在住

広島で被爆した母親の入院先である病院に泊まり込み、救護活動を行ったため被爆。父親は出勤途中、相生橋の上の電車内で被爆。原爆投下から6日目の8月11日に息を引き取った。両親と自身の被ばく体験を伝えるため、1980年代に証言活動を開始。以来、核兵器は二度と使ってはならないと訴え続けている。海外での証言活動も積極的に行ってきた。2010年にはピースボート「ヒバクシャ地球一周証言の航海」に参加し、同年ニューヨークで行われたNPT再検討会議に代表団として派遣された。



空 民子(そら・たみこ)

広島被爆 1942年1月24日生まれ 被爆当時3歳

広島市在住

爆心地より1.4キロメートルの自宅で被爆。洗濯をしていた母と、すぐに庭にあった防空壕に避難したため一命をとりとめた。

広島へ来る修学旅行生へ被爆証言を話したり、広島大学の原爆や継承に関わるプロジェクトに関わるなど平和活動に携わる一方、デイサービスのボランティア活動や、趣味の合唱やミュージカルへの出演など活動は幅広い。今回、ピースボートおりづるプロジェクトへは初めての参加。

■ユース特使



安藤 真子(あんどう・まこ)

広島出身、兵庫県宝塚市在住 現在23歳

高校時代、核兵器廃絶の署名や被爆証言を集める活動に関わった。また、ユネスコ青少年平和大使や「第20回 核戦争防止国際医師会議(IPPNW)ユースサミット」議長を務めるなど、精力的に平和活動に関わっている。2018年1月に出航したピースボートにおりづるユース特使として参加し、今回は二度目の乗船となる。現在神戸大学大学院に在学。

※出航時(2018年9月1日)の年齢を記載しています。

● 寄港地での活動

9月11日 シンガポール

活動都市:シンガポール

発言者:空民子さん、安藤真子さん(船内証言会/約100名)

インターナショナルスクールの6~11年生約80名を船内に招き、代表して空民さんが被爆証言を行う。また、シンガポールまで乗船していた「地球大学特別プログラム」に参加する17名の参加者も準備に携わり、参加した。証言の後は感想や質問が多く、また折り鶴を一緒に折るなどの交流の時間も持つことができた。

9月29日 プレウス(ギリシャ)

活動都市:プレウス

発言者:塚本美知子さん(セレモニー/約10名)

ピースボートの長年のパートナーである核戦争防止国際医師会議(IPPNW)の平和活動家などが港で歓迎セレモニーを行い、塚本さんが代表して挨拶をし、連帯を呼びかけた。

10月1日 コルフ島(ギリシャ)

活動都市:コルフ島

発言者:空民子さん、安藤真子さん(船内にて市長面会と署名式/約10名)

コルフ市長 Costas Nikolouzos さんと副市長が船へ訪れ、平和首長会議へ加盟する署名を行う。コルフ市では市議会で、核を載せた船は入港させないという決議を通したばかり。核兵器禁止条約へ国として反対の姿勢をとっているものの、市としては核兵器のない世界を実現させるための努力をしていることを強調された。空さんからは、「核兵器のない世界へ向けて共にならばいましょう」と挨拶した。

10月3日 ドブロブニク(クロアチア)

活動都市:ドブロブニク

発言者:塚本美知子さん、安藤真子さん(市庁舎で証言会/約25名)

市民に向けた証言会を実施。代表して塚本美知さんが証言を行った。副市長である Jelka Tepsic さんが歓迎の挨拶をしてくださり、現地の高校生を中心とした若者が20名ほど参加した。ユースからは被爆証言を直接聞く意義を話した。



10月4日 コトル(モンテネグロ)

活動都市:コトル

発言者:空民子さん、安藤真子さん(文化センターにて証言会/約50名)

地元の高校生約 50 名に向けた証言会を実施。コトル副市長 Branko Nedovic さんから歓迎の挨拶を受ける。代表して空民子さんが証言を行い、質疑応答では塚本さんも証言を一部話した。高校生からは、「原爆を受けたことによる身体への影響はあるか」「広島ではどのくらいの人が被害を受け、どれくらいの人が生き残ったのですか」などの質問が出た。

10月9日 モトリル(スペイン)

活動都市: グラナダ

発言者: 塚本美知子さん、空民子さん、安藤真子さん(グラナダ大学にて証言会/約 60 名)

グラナダ大学で研究をしている ICAN のメンバーの受け入れで、同大学の政治・社会学部で大学生約 60 名に向けた証言会を実施。塚本さん・空さん両名が証言をし、ユースも「核兵器に頼り続けるのか、核兵器のない未来を選択していくのか、一人一人考えて欲しい」とスピーチを行った。熱心にメモを取りながら聞いている学生が多く、「なぜ唯一の戦争被爆国である日本が核兵器禁止条約へ参加していないのか」という質問があった。

10月10日 タンジェ(モロッコ)

活動都市: タンジェ

発言者: 塚本美知子さん、空民子さん、安藤真子さん(メディア取材)

モロッコのウェブメディア「Le360」による取材を受け、塚本さん・空さん両名が証言。安藤さんもユースとしてのメッセージを話した。アラビア語・フランス語で配信された。

10月12日 ポルト(ポルトガル)

活動都市: リスボン

発言者: 塚本美知子さん、空民子さん(国会議員との面会)

首都リスボンの議会を訪問し、副議長 José Manuel Pureza さん、社会党、ポルトガル共産党の議員と意見交換、核兵器禁止条約への署名・批准を要請。塚本さん、空さんが証言を話し、核廃絶は被爆者の夢であり、昨年の核兵器禁止条約の採択はその夢に近づく嬉しいものだったと語った。副議長からはピースボートの平和・反核活動への激励の言葉を述べ、議員からは、ポルトガル議会で核兵器禁止条約に関する議論が行われていること、核軍縮が重要な課題であるとの説明があった。核兵器禁止条約への署名・批准を自国の政府に求めていくという「ICAN 誓約」に 3 名が署名した。



10月16日 リバプール(イギリス)

活動都市: リバプール

発言者: 塚本美知子さん(市長と面会、高校での証言会/約 10 名)

市長への表敬訪問を実施。リバプール市長は塚本さんの証言にじっと耳を傾け、「このようなことは二度と起こってはならない」とコメント。また、同席したイギリスの平和首長会議のコーディネーターから、リバプー

ルの平和首長会議への加盟を要請した。続けてリバプールの高校では歴史を学ぶ生徒8人と先生に向けて証言。戦後の広島復興についてなど多くの質問があった。最後にCND主催の平和活動家との交流会があり、核兵器禁止条約の採択とICANノーベル平和賞受賞は市民の行動の積み重ねであること、政府を動かしていくのは市民の力であることを強調した。



10月17日 ダブリン(アイルランド)

活動都市:ダブリン

発言者:塚本美知子さん(外務省にて面会、高校にて証言会/約130名、市長との面会)

外務省では軍縮部長 Orlaith Fitzmaurice さんと面会。アイルランドの軍事的な中立性、核軍縮、人道イニシアチブへの取り組みや若者の軍縮教育の重要性を強調された高校では約130名の生徒へ向けた証言し、半数以上の生徒がヒバクシャ国際署名へ署名をしてくれた。市庁舎ではダブリン市長と面会。市長は塚本さんの証言に熱心に聞き入り、証言活動への激励の言葉とねぎらいの言葉をおくってくれた。その後、ダブリン市内の公園にある「記念桜」(1980年8月6日に植えられ、毎年原爆犠牲者の追悼式が行われる場所)を訪問。記者会見では新聞記者や国会議員が参加し、核兵器禁止条約への年内の批准を要請した(写真)

10月22日 レイキャビク(アイスランド)

活動都市:レイキャビク

発言者:塚本美知子さん、空民子さん、安藤真子さん(船内にて証言会/約20名)

アイスランド大学の日本語を学ぶ学生向けに、塚本さんが証言した。空さんからメッセージを伝える。数年以内に日本へ留学することが決まっている学生が多く、日本に行ったときには広島を訪れたいというコメントや、つらい経験を勇気を持って話してくれてありがとうという感想を多くいただいた。

10月29~30日 ニューヨーク(米国)

活動都市:ニューヨーク

発言者:空民子さん、塚本美知子さん、安藤真子さん(大学にて証言会/約100名、国連にてサイドイベント)

29日はニュージャージー州・ニューアーク市にあるラトガース大学で、大学生約100名に向けて証言会を行う。空民さんが証言し、「どのようにしてつらい経験を乗り越えたのか」などの質問があった。ここでは国連軍縮部(UNODA)の職員もゲストスピーカーとして参加し、核兵器をめぐる世界の動きや核兵器禁止条約の重要性についても講演した。また、主催者の学生が呼びかけて1ヶ月かけて集めた1038筆の署名を受け取った。

30日は国連本部を訪れ、オーストリア・メキシコ政府が共催したサイドイベントにて塚本美知子さんが証言、「核兵器を持つことが恥だと思える世界になってほしい」と訴えた。また、安藤さんがユースとしてスピーチを行った。イベントでは核兵器禁止条約の早期発効に向けた意見交換が行われ、核兵器の議論の中で人道的側面を考えることの重要性を確認した。また同日、軍縮会議日本政府代表部を訪れ、高見澤將林大使と面会。最後に9.11トリビュートミュージアムへ訪問し、同時多発テロについて学び生存者のピーターさんから証言を伺った。



11月3日 ハバナ(キューバ)

活動都市:ハバナ

発言者:塚本美知子さん、空民子さん、安藤真子さん(船内にて証言会/約60名)

キューバ諸国民友好協会(ICAP)の受け入れにより、政府幹部や外務省の方、国会議員、そして学生約60名を船内に招いて証言会を実施。塚本さん、空さん両名が証言した。すでに核兵器禁止条約に署名・批准をしリーダーシップを発揮してきたキューバの方々と、核兵器は非人道的兵器として早急に廃絶すべきであること、そのための活動の意義を共有できた。

11月13~14日 カヤオ(ペルー)

活動都市:リマ

発言者:塚本美知子さん、空民子さん(地域教養センター/約10名、私立学校にて/約100名)

13日はリマ市内の地域教養センターで、約10名の一般市民に向けて塚本さん、空さんがそれぞれ証言を行った。14日はリマ市内の私立学校で小中学生約100名に向けて両名が証言をし、質疑応答では「アメリカに対する気持ちは」「被爆者に対しどのような差別があったのか」など多くの質問があった。証言の後には学校のユースオーケストラによる演奏が披露された。



11月23日 プエルトケツアル(グアテマラ)

活動都市: アンティグア

発言者: 塚本美知子さん、空民子さん、安藤真子さん(サン・カルロス・デ・グアテマラ大学にて証言会/約10名)

ICANの国際運営団体の一つであるラテンアメリカの人間の安全保障のためのネットワーク(SEHLAC)の受け入れにより、サン・カルロス・デ・グアテマラ大学のカルチャーセンターで証言会を実施。大学生と職員約10名が参加した。塚本さん、空さん両名が証言し、参加者とおりづるを折る交流も行った。また、塚本さんと安藤さんがテレビの取材を受け広く報道された。

11月26日 マンサニージョ(メキシコ)

活動都市: マンサニージョ

発言者: 空民子さん、塚本美知子さん、安藤真子さん(船内で証言会/約450名)

地元のUTEM大学の大学生・高校生に向けた証言会。マンサニージョ市長も参加。代表して空さんが証言を行い、ユースもスピーチを行った。学生から「私たちに何ができますか」などの質問があり、空さんからは「今日聞いた話をぜひ周りの方に伝えてください」とあった。ヒバクシャ国際署名への呼びかけに対し半数以上の学生が署名してくれた。

続いてマンサニージョ市が港付近の広場で主催した「平和と友好のためのフェスティバル」にて、市民とピースポート参加者約600名を前に塚本さんがスピーチ。核廃絶への思いやメキシコへ感謝の気持ちを伝え、核廃絶のために一緒にがんばりましょうと呼びかけた。



12月6日 ホノルル(米国)

活動都市: ホノルル

発言者: 塚本美知子さん、空民子さん、安藤真子さん(ハワイ大学にて証言会/約50名)

午前中はパールハーバービジターセンター(アリゾナ記念館)を訪問し、1941年の12月7日の真珠湾攻撃について学んだ後、ハワイ大学で大学生約50名に向けて証言会を行った。真珠湾攻撃を含め、原爆投下に至るまでの歴史的背景や投下の理由についても触れ、塚本さん、空さん両名が証言を行った。空さんからは真珠湾攻撃に対する謝罪の言葉もあり、それに対し「謝罪をしてくれてありがとう。私もアメリカ人として、アメリカが広島に原爆を落としたことを本当に申し訳なく思う」というやりとりがあり、お互いの負の歴史を学び向き合う大切さ、対話の大切さを実感した。証言会の後はハワイ在住のジャーナリストの電話インタビューを受けた。

【その他の寄港地】

厦門(中国)、マーレ(モルディブ)、ドゥラス(アルバニア)、パレルモ(イタリア)、ア・コルーニャ(スペイン)、モンテゴベイ(ジャマイカ)、クリストバル(パナマ)

●ヒバクシャ国際署名

合計: 1, 842筆

【賛同してくださった主要な方々】

- ・ Christine Banks(リバプール市長)
- ・ Nial Ring(ダブリン市長)
- ・ Grainne Kelly(ダブリン市議員)
- ・ Branko Nedovic(コトル副市長)
- ・ Costas Nikolouzos(コルフ市長)

●船内での活動

《主な交流相手》

■ 地球大学特別プログラム

「ともに築くアジアの平和」をテーマにしたプログラムに参加するため、アジア6カ国から17名の若者が神戸～シンガポールまで乗船した。国籍は日本、台湾、マレーシア、インド、東ティモール、ブルネイ・ダルサラーム。乗船前に広島でスタディツアーを行い、ユースの安藤さんも参加。船内では共に継承について考えるワークショップを行った。

■ おりづるパートナー

おりづるプロジェクトに関心を持って、主体的に関わってくれる方々をおりづるパートナー(通称:おりぱ)と呼称している。被爆者の方とともに、劇や合唱など、様々な企画等を通じてこの問題を知ってもらえるように、船内などで活動している。下船後も継続してその活動に携わる方もいる。

■ 水先案内人

Fauziah Hasan さん(医師、人道活動家／マレーシア)

伊勢崎賢治さん(東京外国語大学大学院地域研究科教授、平和構築・紛争予防講座長)

Yeo Lay Hwee さん(シンガポール欧州連合センター事務局長／シンガポール)

Eamon Rafter さん(グレンクリー平和・和解センターの学習コーディネーター／アイルランド)

Donisha Prendergast さん(女優、活動家／ジャマイカ)

Sanho Tree さん(IPS 政府科学研究所麻薬政策プロジェクトディレクター／米国)

Maria Villarreal さん(SEHLAC 事務局長、ICAN 国際運営委員／グアテマラ)

Kaleo Ten さん(オロハナ財団クリエイティブディレクター／ハワイ)

ほか

■ 多国籍な参加者

第99回ピースポート約1, 200名の参加者のなかには、日本国籍の方以外にも、中国、台湾、香港、シンガポール、マレーシアなど約300名の多国籍の参加者が乗船し、船内での企画の多くを中文・英語の通訳を入れて行った。

《企画一覧》

1. 原爆の被爆の実相を伝え理解を深める

- 上映会: おりぱ向け「ひろしま」上映会(9/8)
- 証言会: 「73年前のあの日、二人の少女に刻まれた記憶」(9/15)
- 上映会: 「ひろしま」上映会(9/15)
- 証言会: 「英語・中文で行う 73年前のあの日、二人の少女に刻まれた記憶」(9/22)
- 展示: 「証言の「バトンタッチ」展～故・絵本作家 森本順子さんのパネル展～」(9/26)
- 講座: ピースガイド講習②核兵器とは何か(11/5)
- 講座: ピースガイド講習③原爆投下にいたるまで(11/10)
- 講座: ピースガイド講習④広島・長崎の被害の概要(11/11)
- 上映会: 「きのこ雲の下で何が起きていたのか」(11/17)
- 証言会: ピースガイド講習⑥証言会1(11/20)
- 証言会: ピースガイド講習⑧証言会2(11/24)

2. プロジェクトの意義や成果を一般参加者と共有する

- 紹介企画: 「平和への思いを届ける～ピースポートおりづるプロジェクト紹介～」(9/5)
- 交流: おりづるパートナー集まれ(9/7)
- 上映会: 「おわりのはじまり～ノーベル平和賞のその先に～」(9/9)
- 講演会: 「ピースポート35周年記念トーク～核兵器のない世界を目指して～」(9/12)
- 交流: 「はばたくおりづるを折ろう」(9/13)
- 交流: おりづるパートナー集まれ(9/19)
- 対談: 「スタッフ紹介特別編 おりづるユース紹介」(9/20)
- 交流: おりづるパートナー集まれ(9/21)
- 交流: おりづるパートナー集まれ(9/23)
- 交流: おりづるパートナー集まれ(9/24)
- 上映会: 「英語・中文で行う おわりのはじまり～ノーベル平和賞のその先に～」(10/25)
- 報告会: 「おりづる中間報告会～ヨーロッパ編～」(10/28)
- 説明会: おりづるピースガイド募集説明会(10/31)
- 講座: ピースガイド講習①オリエンテーション(11/1)
- アクション: 「#YesICAN フォトアクション」(11/30)
- 交流: 「はばたくおりづるを折ろう」(11/30)
- 交流: 「連なるおりづるを折ろう」(12/1)
- 交流: 「おりづるの歌をうたおう」(12/2)
- 交流: 「おりづるの歌をうたおう」(12/3)
- 交流: 「大きなおりづるを折ろう」(12/4)
- 展示: 「ノーベル平和賞メダル記念撮影会」(12/7)
- 報告会: 「ピースガイド修了式&報告会」(12/9)
- 展示: 「みんなの発表会 The Final おりづるアート」(12/11)
- 報告会: おりづるプロジェクト最終報告会(12/12)
- 対談: 「地球一周の学びとモヤモヤとこれから」(12/12)

3. 戦争や被爆体験の継承について理解を深める

- セミナー: 地球大学特別ゼミ 被爆証言の継承について(9/3)
- セミナー: 地球大学ゼミ 歴史認識について(9/7)
- 意見交換: おりぱ集まれ(9/9)
- 意見交換: おりぱ集まれ(9/10)
- 講演会: 戦争と核(9/10)
- 意見交換: 「しゃべり場 証言を聞いて感じたことをシェアしよう」(9/16)
- 意見交換: 「英語・中文で行う しゃべり場 証言を聞いて感じたことをシェアしよう」(9/22)
- 座談会: 「ワタシたちの戦争の話しよう。」(9/26)
- ワークショップ: 「核問題を「感じる」ワークショップ」(9/26)
- 上映会: 「フラッシュ・オブ・ホープ」上映(9/26)

交流:「おりづるを折ってアートをつくろう」(9/26)
交流:「原爆の絵本朗読&図書コーナー」(9/26)
交流:「平和の歌を歌おう」(9/26)
上映会:「夕凧の街 桜の国」上映会(10/14)
交流:平和合唱団 合唱練習(10/18)
交流:平和合唱団 合唱練習(10/19)
対談:「平和都市」ひろしまの地面の下」(10/21)
講座:ピースガイド講習⑦継承とは(11/21)
講座:ピースガイド補講①(11/12)
講座:ピースガイド補講②(11/27)
面談:ピースガイド面談(11/28~12/4)
座談会:「平和船に乗った私たちの未来」(12/7)
ワークショップ:「ピースガイド集まれ!下船後のプランを考えよう」(12/8)

4. 原発を含めた核に関する問題や平和の問題について理解を深める

講演:「ICAN ノーベル平和賞受賞記念講演~核兵器のない世界をめざして~(9/4)
対談:「教えて川崎さん!ノーベル平和賞で世界は平和になるの?」(9/7)
講演:「太平洋の非核・独立への道」(9/26)
ワークショップ:「地球小学校~核と向き合うはじめての一步~」(9/26)
講演:「私が出会った世界のヒバクシャたち」(9/26)
講演:「核なき明日を目指して~私が関わってきた核廃絶運動」(9/26)
上映会:「映像で見る核の時代」(9/26)
展示:「核兵器禁止条約アンケート」(9/26)
展示:「核の世界地図」(9/26)
ワークショップ:「地球小学校~20代で知っておくべきエネルギーのこと~」(10/18)
講演:「原爆投下の決断」(11/18)
講座:ピースガイド講習⑤サンホ・ツリーさんに聞いてみよう(11/18)
講演:「ラテンアメリカから、核兵器のない世界を目指して」(11/24)
講演:「人道的軍縮とはなにか」(11/25)
講座:ピースガイド講習⑨原発とグローバルヒバクシャ(11/25)

● 詳細

ホームページ(日) <http://peaceboat.org/projects/hibakusha>

ホームページ(英) <http://peaceboat.org/english/?page=view&nr=83&type=28&menu=105>

ブログ(日) <http://ameblo.jp/hibakushaglobal/>

ヒバクシャ国際署名 <http://hibakusha-appeal.net/index.html>

● メディア掲載情報(一例)

1) 2018年10月5日掲載(クロアチア)



Peace Boat representatives in Dubrovnik show the consequences of using nuclear weapons

By Ivana Smilović | Oct 05, 2018 | Print | Email

Deputy Mayor Jelka Tepsic welcomed representatives of the international organization Peace Boat, who held a presentation in the City Hall on the consequences of using nuclear weapons. Guests from Hiroshima Tsukamoto Michiko and Sora Tamiko shared their testimonies about the survival of the atomic bombing in 1945 and the devastating consequences which nuclear weapons bring.

On behalf of the City of Dubrovnik, Mayor of Dubrovnik Mato Frankovic and herself, deputy Tepsic said that she is honored because successful cooperation between Peace Boat and the City of Dubrovnik has been going on for many years through various activities. She emphasized the importance of active engagement of this organization and thanked the guests for sharing their personal stories.

Peace Boat has its headquarters in Tokyo, and for 30 years has been organizing educational programs on a transatlantic ship. It is a member of the ICAN Steering Committee, the International Association for the Elimination of Nuclear Weapons, which in 2017 received the Nobel Peace Prize. The theme of this trip is "From the ban to the abolition of nuclear weapons with the power of civil society". In the introductory statement, Terachi Ami, a representative of the organization, emphasized that nuclear weapons are endangering the world, causing terrible consequences and should be banned in every sense of use. She presented the current Peace Boat programs and the current situation with the ratification of the United Nations nuclear weapons prohibition agreement.

Tsukamoto Michiko was 10 years old when she had survived the atomic bombing, and in her presentation to the gathered students and representatives of associations and social organizations, among other things, she said that nuclear weapons and people cannot exist together. She emphasized that her testimony is not a historical story, but today's reality, as many people today suffer from the consequences of radiation.

2) 2018年10月13日掲載(モロッコ)

VIDÉO. TANGER: LE360 À LA RENCONTRE DE DEUX SURVIVANTES DU BOMBARDEMENT D'HIROSHIMA

Par Saïd Saïry le 13/10/2018 à 17:04 (mise à jour le 13/10/2018 à 17:07)

© Copyright : Le360

Le navire de la paix japonais "Peace Boat", qui entame un périple à travers le monde pour promouvoir la culture de la paix, a fait escale, mercredi 10 octobre, à Tanger. Le360 a immortalisé cet événement. Reportage et témoignages de deux rescapées de la bombe atomique d'Hiroshima.

資料請求でクーポン500円
分、10/28まで。リポート率
50%以上、のべ7万人乗船...

Le navire atterri au Japon transporte à son bord plus de 1.000 personnes de 61 nationalités et deux millions. Le Peace Boat a été repris en plein air à travers plusieurs pays de monde. Par ailleurs, un témoignage de ces personnes: le message vidéo pour la culture de la paix aux Nations.

LIRE AUSSI : Vidéo. Le Japon commémore le bombardement atomique d'Hiroshima

À bord du navire, se trouvent notamment deux rescapées du bombardement atomique d'Hiroshima, le 6 août 1945, qui a causé la mort de 72.000 personnes. Le360 les a rencontrées, 70 ans, le 10 octobre, et a immortalisé le message vidéo.

3)2018年10月31日掲載(ニューヨーク)

西日本新聞 > ニュース > 社会

米学生に被爆体験の苦悩を証言 ピースボート乗船の空民子さん

2018年10月30日14時28分 (更新 10月30日 16時11分)



学生に被爆体験を語る空民子さん(右) = 29日、米東部ニュージャージー州ニューアークのラトガース大(共同)

[写真を見る](#)

【ニューアーク共同】非政府組織(NGO)ピースボートの船で世界一周の航海を続けている被爆者空民子さん(76) = 広島市中区 = が29日、訪問先の米東部ニュージャージー州ニューアークのラトガース大で、学生ら約200人を前に自身の苦悩に満ちた被爆体験を語った。

3歳のころ、爆心地から約1・4キロの自宅で被爆した空さんは当時の状況について、近くの通りに多くの死体が横たわり「生き地獄だった」と振り返った。

幼いころは「汚い」とののしられ、被爆者健康手帳が交付された後は「病気になるっても医療費がかからなくていいね」と心ない言葉を投げ掛けられることもあったと吐露した。

この記事は有料記事です。

残り299文字 (全文497文字)

国連

[関連ニュースはこちら >](#)

被爆・塚本さん、核禁止条約「早期発効を」

会員限定有料記事 毎日新聞 2018年10月31日 08時43分 (最終更新 10月31日 10時39分)

[社会一般 >](#) [オーストリア >](#) [アメリカ >](#) [北米 >](#) [国際 >](#) [欧州 >](#) [速報 >](#)



2018年10月30日、国連本部で核兵器禁止条約の早期発効を訴える会合に出席した塚本美知子さん(右) = 共同

ニューヨークの国連本部で30日、被爆者が英語で体験を証言し、昨年7月に採択された核兵器禁止条約の推進国と共に、条約の早期発効を目指して各国に批准を訴える会合が開かれた。オーストリアは第1回締約国会議のホスト国に名乗りを上げたことを明らかにした。

証言したのは広島で被爆した塚本美知子さん(84)。原爆投下当時、瀬戸内海の島に疎開中だったが、広島市にいた父親は重いやけどで死亡。父親を捜し歩いて黒...

この記事は有料記事です。

残り299文字 (全文497文字)

「核の所持は恥」

【ニューヨーク共同】二 える会合が開かれた。オーストリアは第1回締約国会議のホスト国に名乗りを上げたことを明らかにした。昨年7月に採択された核兵器禁止条約の推進 証言したのは母親の救護国と共に、条約の早期発効 活動に当たり被爆した塚本を目標して各国に批准を訴 美知子さん(84)。願爆投下



国連本部で核兵器禁止条約の早期発効を訴える会合に出席した 塚本美知子さん(ニューヨークで30日、共同)

禁止条約推進会合 国連で被爆者証言

当時、瀬戸内海の島に疎開中だったが、広島市にいた父親は重いやけどで死亡。父親を捜し歩いて黒い雨を浴びるなどし、被爆した母親も後になんていなくなり、平和運動に人生をささげる決意をしたと説明した。

塚本さんは核兵器のない世界に「核を持つことは恥だと考えてほしい。人類とは共存できない」と訴えた。

条約は50カ国・地域が批准して90日後に発効する。現在までに批准したのは19カ国・地域。日本は署名していない。発効後1年以内には締約国会議が開かれる。

(2018年10月31日 毎日新聞)

4)2018年12月12日掲載(ハワイ)

The Peace Boat In Hawaii: 'We Absolutely Must Not Wage War'

Summary of the historic speech by Japanese Prime Minister Shinzo Abe in Hawaii on the 12th of December 2018.

Introduction

Japanese Prime Minister Shinzo Abe visited Hawaii on the 12th of December 2018. He gave a historic speech at the University of Hawaii.

The key message of the speech

The key message of the speech was that Japan and the United States must not wage war. He said that the two countries must work together to maintain peace in the Pacific.

Background

The speech was given in Hawaii, a state that has a long history of peace. It is a state that has been a part of the United States since 1900. It is a state that has been a part of the Pacific War since 1941. It is a state that has been a part of the Cold War since 1945. It is a state that has been a part of the 21st century since 2001.

Key points

1. Japan and the United States must not wage war. 2. The two countries must work together to maintain peace in the Pacific. 3. The United States must not use nuclear weapons. 4. The United States must not use force to resolve disputes. 5. The United States must not use military force to resolve disputes.

Conclusion

The speech was a historic moment in the relationship between Japan and the United States. It was a moment that showed that the two countries are committed to peace in the Pacific. It was a moment that showed that the two countries are committed to working together to maintain peace in the Pacific.



More information

For more information, please visit the website of the Peace Boat. The website is www.peaceboat.org.